

CASE STUDY

テクダイヤ、グローバル対応のERPにより、世界中のデータを一元化し、意思疎通の迅速化や顧客満足の上昇を達成

アマゾン ウェブ サービス (AWS) 上で稼働するInfor CloudSuite Industrial を採用

テクダイヤ株式会社（以下テクダイヤ）は、2020年9月に、工業用製品・素材加工業界向けの要件に標準対応するAWSネイティブ対応のERPであるInfor CloudSuite Industrial(Syteline)を、クラウド環境上で本稼働し、同年末までにグローバル展開を完了した。

テクダイヤは、1976年に設立。工業用ダイヤモンド販売の商社からスタートし、現在はセラミック応用技術・精密機械加工技術・ダイヤモンド加工技術をコアとしながら5G通信をはじめとする先端技術のものづくりを支えている電子部品製造業である。日本本社のほか、フィリピン・セブ島に工場、米国・中国・台湾・韓国に販売会社を持つグローバル企業である。

テクダイヤは、顧客の要望に答えることができる熟練技術に価値をおきつつ、近年は急速なグローバル展開と次世代社員の採用を行ってきた。しかし、その過程で、システムが統一されていないことによる弊害が顕著になってきた。例えば、本社とフィリピン工場の意思疎通に時間がかかる、工場の経験に頼った生産により各種データが散らばって集計に時間がかかる、納期回答に時間がかかるなどである。そこで、2019年に、新システムの選定を開

TECDIA

本社
東京、日本

売上高
21億円(2020年度)

業種
電子部品

従業員
74名

Infor製品
Infor CloudSuite Industrial

Webサイト
<https://www.tecdia.com/jp/>

“ Infor CloudSuite Industrialは製造とグローバルの要件にフィットしており、パートナーのKISC社から硬直化した社内を改革できる強力な改善提案をしていただいたことが採用の決め手となりました”

李ショトン氏
テクダイヤ株式会社
テクダイヤ管理部リーダー

始した。

グローバル対応で高い評価

同社では、次期システム選定のため、Infor CloudSuite Industrialを始めとする複数のERPを比較した。Inforの製造業向けに特化したERPであるInfor CloudSuite Industrialは、生産管理の機能の豊富さとどまらず、販売管理・購買管理・会計もグローバルで対応できる点において同社の評価を満たした。また、パートナーであるKISC社のコンサルタントの製造業への深い知見と、単なるシステム導入提案にとどまらない「構想企画サービス」が、採用の決め手となった。

KISCは、テクダイヤの要請を受け、導入開始前に2ヶ月の『構想企画サービス』を実施することとした。まず組織と業務の現状調査を行い、課題を抽出し構造化を実施。その後、課題を達成するためのアクティビティを定義し、あるべき姿であるTo-Beモデルをデザイン、さらに導入予定のInfor CloudSuite Industrialの特性を踏まえた『実現可能モデル』への落とし込みを行った。

構想企画サービスの結果、テクダイヤのシステム刷新のテーマは、『生産形態別の業務モデルの定義』と定められた。実現可能モデルでは『在庫の適正化』、『リードタイムの短縮』を実現するための最低限の業務を定義していった。例えば標準品における理想の姿は海外版社とセブ工場のみでビジネスを完結するモデルであるが、実現可能ではAs-Is同様に販社から本社へ発注し本社が工場のための受注・納期管理機能として位置づけられるモデルとしてデザインした。

2ヶ月の構想策定を終えたのち、2019年9月よりERP導入プロジェクトが開始された。電子部品の需要増大により、プロジェクトメン

“引き続きプロジェクトメンバーで生産の平準化のシミュレーションを続けて生産計画の見える化を達成し、最終的に原価・品質・生産実績や販売結果の分析に活かせるデータを揃えて経営に活かしていきたいと考えています”

李シヨトン氏

ビジネス上の成果

- 意思疎通を妨げていた膨大なメールやExcelを劇的に減らせた
- 今まで1日以上かかっていた納期回答が即時に可能になった
- 正しいデータを正しいタイミングで入力することで、今まで
- 1ヶ月程度かかっていた問題分析が即座に分析可能になった

バーが多忙になったり、2020年初頭にはCOVID-19によるフィリピン工場の稼働停止など幾多の困難があったりしたが、当初予定より3カ月遅れたものの、2020年9月には一部並行運用をしながらグローバル5拠点の稼働を成功させた。外部要因を除けば、グローバル5拠点をほぼ遅延なく稼働することができた。

社内に導入・開発の知見を蓄積

また、社内に導入・開発の知見を残して自立できるようにしている。プロジェクトの目的を繰り返し伝え、Infor CloudSuite Industrialの教育マニュアルはITベンダー任せにせず自社で作成した。習熟度を上げるために、集中的に操作に慣れるための反復演習を行った。システム導入前は限られたITスタッフが対応していたが、プロジェクトの中盤からシステムエンジニアを新たに採用し、開発トレーニングを受講して、今後は自社で軽微な開発や帳票レイアウトの変更ができるようにしている。

詳細はこちら



インフォアは、業界特化型のビジネスアプリケーションをクラウドで提供しています。17,000人の社員が、170か国以上で67,000以上のお客様を支援しています。インフォアのソフトウェアは、お客様の業務の進化に向けたデザインとなっています。

Copyright© 2021 Infor. All rights reserved. ここに示す文字商標及び図形商標は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。www.infor.com.

東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル16階

INF-2477878-ja-JP-0521-1